

今回私が東京研修に応募した理由は、日本の首都東京ではどのような方々がどのようなことをし、さらによくテレビ等で取り上げられるのは日本を代表する大学、東京大学とはどのような場所なのかというのを、一度だけでも見て、体験して見たいと感じたからである。

1 日目の午前に行われたディレクトフォース(DF)では素晴らしい経歴を持つ方々と話すことができた。

一人目の村上さんは過去に外務省や ODA(政府開発援助)に勤務されたことのある方だ。村上さんは大学の時法学部に進まれており、それはどうしてなのかと質問したところ、法学部だと色々な面で応用が効くからだとおっしゃっていた。さらに「答えのない問題」についても挙げ、「平等」を例に「機械の平等」「結果の平等」の違いについてや、答えがない、もしくは見出せない時は「そもそも平等は必要なかどうか」というように原点に戻ることが必要なのだとおっしゃっていた。

二人目の矢ヶ崎さんは過去に銀行員として働いていた方だ。世界を股にかける銀行員としてのグローバルビジネスの面白さと難しさについて語った。グローバルビジネスの面白さは、国境を越えることのスリル感、異文化への好奇心、会社の為、家族の為、自分の為、現地に為、本当にそこに存在することへの驚き、異人種への競争心、若くても責任を任せられる、日本の本社から離れて自由にのびのびと業務ができる、ということだ。難しかった点は、異文化・習慣との相互理解の難しさ、異なる法律の理解、融資の保全の難しさ、現地職員の忠誠心の確保の難しさ、第二次世界大戦の正・負の遺産、日本人の脇の甘さ、が挙げられた。さらに我々に贈る言葉として世界地図を逆さまに見て見ること、異国の友人を作ること、自分も外国に行けば外人、真の国際人になる為には先ず日本を良く知ること、常に明るく好奇心を持つこと、何か一つ趣味を持つこと、絶対という言葉を使わないこと、自分の作り話を信じるようになったらもう終わり、とおっしゃっていた。特に真の国際人になる為には先ず日本を良く知ることというのは非常に共感できた。周りで外国のことを知ろうなどと訴えている人もいるが先ずはまだ我々が知らない日本の姿、文化を知るべきではないかと思った。また、矢ヶ崎さんは過去に金銭関係で現アメリカ合衆国大統領トランプ氏と喧嘩になったということも伺い、世界のトップと関わったことのある素晴らしい方なのだ改めて感じた。

3 人目の青木さんは自分たちのいる世界は非常に狭いということをおっしゃっていた。学生時代とは社会という大海原に出航することであり、今何が起きて将来何が起きるのかというのを考える時だとおっしゃっていた。グローバリゼーション、少子化、ICT 化など社会で様々な変化が起きる中で自分が振り回られないことが必要なのだとおっしゃっていた。とにかく一生懸命になって、成功した時の喜び、失敗した時の悔しさを味わう、五感に訴える体験を、常に Why と自問自答することが非常に重要だとおっしゃっていた。さらに

自立とは自分の意見をしっかりと持ち、自分で決め、自分で行動し、その結果の責任を自分で負う、ということを知り自立の難しさを改めて実感した。

村上さん、矢ヶ崎さん、青木さんの3人の話を聞いて、私は、「コミュニケーション能力」「英語力」「一生懸命」というワードが共通しているのではないかと感じた。「コミュニケーション能力」と「英語力」は国際社会において必要不可欠のものであり、日々の英語の学習等で身につけていく必要があると改めて感じた。さらに「一生懸命」に関しては今後も引き続き学習、部活、行事等に一生懸命取り組んでいきたいと思う。特に学習に関しては一学期中間考査で思うように力が発揮できず、後悔した部分があったのでのちに後悔しないよう、今後の一学期期末考査をはじめ、様々な模試に一生懸命に取り組み、日々の学習も今まで以上に一生懸命に取り組んでいこうと思う。

私はディレクトフォース(DF)の後、Apple Japan,incへ企業訪問に伺った。私自身 iPhone を持っていて身近にある Apple とはどのような会社でどのようなことをしているのかを知りたかったので今回の企業訪問先に選択した。Apple Japan,inc とい機密製品を扱う多国籍企業であることから、聞くことのできる質問は数少なかったものの、今まで私たちが知り得なかった様々な情報を得ることができた。

まず一つめは新製品の機能、料金等の情報を一切外に漏らさないということである。もし外部の人に「新製品はどういう感じなの？」と聞かれても Apple の社員の方々は「知らない」と否定するとおっしゃっていた。もちろん家族や友人にもだ。次に、「google 社等が開発を進める Android 製品や Windows 製品が、指紋認証や顔認証機能を搭載した新製品を発表した後、Apple 社がそれに対抗して新製品を出すことはあるのか」とお聞きしたところ「それはいいです」とおっしゃった。「他社と競争しどんどんと便利で素晴らしい端末が発表されていくのは素晴らしいことですが、他社が新製品を発表したからといって我々がそれに対抗してすぐに新製品を発表するということはありません。なぜなら Apple 社の新製品は一年以上かけて開発されているからです。端末を通して世界をより良くする為に、お客様の要望を聞きながら、長い時間をかけて開発しています。我々は iPhone をイノベーター的存在であってほしいと思っております。そのイノベーター的存在である iPhone を通して SF 世界へ一歩ずつ近づいてほしいと思っている。」とおっしゃっていた。

次にどうして Google 社や Microsoft 社ではなく Apple 社に入社することを希望したのかということをお聞きしたところ、部長の方は Apple の人にスカウトされたとおっしゃっておりました。もう一人の方はその方が Apple に入社を希望した時期はまだ iMac と iPod し発表されていなかったが、それらの製品の素晴らしさに惹かれ、Apple 社への入社を希望したとおっしゃっていた。このように自分が惹かれた最高の会社で最高の仕事に携われるというのはすごいことだと感心した。さらに Apple 社は 9:00 出勤 17:00 退社というようにしっかりと時間が定められており、素晴らしい環境で仕事ができることが素晴らしい製品を生むことができている秘訣ではないかと感じた。

この企業訪問を通して自分の興味・感心・知識・特技を活かすことのできる最高の企業

で最高の仕事を行いたいと思った。特に私は鉄道に興味があるので鉄道関係の職に就きたいと考えているが、自分の興味関心は鉄道のどのような部分にあり、どこの企業が自分に適しているのかというのを今後真剣に考えていきたいと思う。

2日目の東大見学会では東京大学・東京大学生の様々なことを知ることができた。この見学会は通して東大には変人しかいないのではないかという私の勝手なイメージを払拭するものであった。私は農学部を見学したのだが、最新の設備などを学生の方々が親切丁寧に教えてくださり、非常にありがたかった。私は工学部に進学しようと思っているもののまだ具体的な学校名までは決まっていないので、施設の環境が素晴らしく自分の力を最大限伸ばせる大学を選び、進学していきたいと感じた。今回の東京研修は自分の将来のことについて考える非常に良い機会であった。